

(89.10.26)

日本物理学会出席印象記

高部英明

鹿児島大学行われた物理学会に10月4日、5日と出席して感じたこと。

- (1) 電総研のASHURA (KrFレーザー)のプラズマ実験立ち上がる。今後が楽しみ。
- (2) 電通大で次元流体コード着手。競争相手が出来て楽しみ。頑張れ。
- (3) レーザー研オンパレードの10月3日、発表した皆さん。その後どこへ行かれたのですか？ 他のセッション、それとも.....。
- (4) 物理学会、あまり面白くないですね。

まず、(4)の分析から。そもそも「学会」の意義とは、(A)研究交流の場、(B)研究勢力誇示の場、(C)研究の節目提供、(D)観光、などなど？ たぶん、(A)以外は今の学会はそれなりに満たしていると思うが、(A)の点で不満を感じる。特にレーザー核融合の分野で。これは、物理学会のプログラム委員会に責任があると思う。もっと(A)を重視したプログラムを組んでほしい。

たとえば、レーザー核融合のセッション。今年は天体物理と抱き合わせ、来年は原子核と、その次は流体物理と、という具合に。プログラム委員の「思想」が現れたようなプログラムにしてほしい。そして、個別の発表の先頭に、他分野の人向けのレビュー講演を置いて、レビューを重視したプログラムにしてほしい。そうすれば、少しは物理学会も面白くなるだろうし、(3)の問題も緩和されるのではないだろうか。

(2)については、これからが楽しみ。佐々木君という助手がMEDUSAをベースに、まず平面の流体シミュレーションを始めている。KrFレーザーの実験(植田、米田コンビ)のデータも出始めているし、実験と対比しながら実戦を積んでいけば、きっといいコードになっていくのではと、競争相手の成長を楽しみにしています(宅間先生ガンバッテ！)。

学会出席は時差ボケ中であつたため、前の方に座っていながら、つい、中井君の発表中にウトウトしてしまいました。中井君、ゴメンナサイ。三間さんは葬儀をすませ、夜行で駆けつけ、着いてすぐのレビュー講演。ごくろうさまでした。その責任感の強さに脱帽。

発表前日は指宿泊。夜8:30に着き、翌朝7:00の電車で学会へ。慌ただしかったが、夜、宿の庭で波音を聞きながら飲んだビールのうまかったこと。アレンジしてくれた西村君、近藤君ありがとう。発表終えての夕食。西鹿児島駅前の「さつま」の郷土料理、美味しかった。「さつま」のオバちゃんありがとう(バンザイ)。そして、翌日発表だったTs(脚注)、Thの学生さん、「薩摩」のオバちゃんさし入れの焼酎、遅くまでつき合わせてごめんなさい。

物理学会、次回は阪大。(D)の意義不足は残念ですが、学会目指して、ガンバロー。

(脚注) Ts: 現在の高部グループのこと。